

新型コロナウイルス感染症対策のため、当分の間『岐大通』の配布方法はこれまでと異なります。ご理解のほど、よろしくお願いいたします。

## 2020 J3 ■順位表 ■第27節

勝点、得失点差、得点、失点、岐阜戦の戦績（岐阜から見て）

1	秋田	65p	+39	47	8	H●	A●
2	長野	49p	+19	40	21	H●	
3	熊本	46p	+9	45	36	H○	A○
4	相模原	46p	+4	33	29	A●	H△
5	鳥取	44p	+7	37	30	A○	
6	岐阜	43p	+8	42	34	---	---
	今治	43p	+8	27	19	H△	A○
8	鹿児島	40p	+4	39	35	A○	H●
9	富山	38p	+8	42	34	A○	H△
10	藤枝	37p	+1	41	40	A●	
11	沼津	32p	-3	29	32	A△	H○
12	福島	32p	-7	36	43	A○	H●
13	岩手	31p	-16	25	41	H△	A○
14	G大阪23	29p	-7	35	42	H○	
15	八戸	25p	-13	33	46	A○	
16	讃岐	24p	-14	28	42	H△	
17	YS横浜	22p	-25	31	56	H○	A△
18	C大阪23	20p	-22	24	46	A●	

※勝点、得失点差が同じ時は同順位とし、リーグ戦終了時に直接対決結果で決定（H&A実施完了時のみ）

## 次回HomeGame

第29節 vs.藤枝MYFC

11/21 (土) 15:00

@岐阜メモリアルセンター  
長良川競技場

大酒場 ホームラン

名鉄岐阜駅前（三菱UFJ銀行隣り）  
年中無休 午後3時から営業

TEL.058-263-5201

「いらっしゃいませ」より  
「おかえりなさい」が似合う  
アットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は  
JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。  
休:月曜日

## today's guest : セレッソ大阪U-23

2019 J3 16勝4分14敗 勝ち点52: 6位

## 直近の対決と結果

2020/07/15  
J3 - 4 節 @ヤンマー

C 阪23 2-0 岐阜

## ここ3試合の公式戦の結果

FC岐阜	セレッソ大阪U-23
2020/11/14 J3 - 27節@ソユスタ 秋田 1-0 岐阜	2020/11/13 J3 - 27節@ギオンス 相模原 0-0 C大阪23
2020/11/08 J3 - 26節@長良川 岐阜 0-0 富山	2020/11/08 J3 - 26節@ヤンマー C大阪23 0-2 沼津
2020/11/04 J3 - 25節@ニッパツ YS横浜 1-1 岐阜	2020/11/04 J3 - 25節@ヤンマー C大阪23 1-3 長野

## セレッソ大阪U-23:

2016(平成28)シーズンからJ3リーグにJ1、J2クラブの23歳以下の選手(U-23)で構成されたチームが参加することとなり、制度開始初年度からJ3に参戦している。なお、この「U-23チームのJ3リーグ参戦」については、試合エントリーメンバーのうち3名(GKは別に1名)までオーバーエイジ選手の登録が認められており、かつてFC東京に所属していた現・FC岐阜の前田遼一はFC東京U-23の試合に出場し、10試合で3得点。(吉田鑄造)

●佳境に入ってきた2020年J3リーグ。11/8(日)第26節・ホーム富山戦は、試合序盤は岐阜が優位に立つものの、決定機で決めきれずに膠着状態に。後半は徐々に運動量の落ちてきた岐阜を圧倒した富山だが、こちらも決定力不足と#29 GKパク・ソンスのビッグセーブにも助けられ、ゴールを守りきって0-0のスコアレスドローに終わった。続く11/14(土)第27節・アウェイ戦は、首位・秋田とのリベンジマッチ。攻守とも秋田の選手たちの素早い動きに苦しむ岐阜だが、負けずと走る岐阜の選手たち。しかし、セットプレーで失点すると、この1点差を追いつくことができず、0-1で敗れてしまった。

この2試合で勝ち点を1しか積み上げられなかったFC岐阜。連勝した鳥取に順位を抜かれ、今治にも勝ち点で追いつかれてしまい、順位は6位タイに後退。そして、シーズンの残り試合は7。勝ち点65の首位・秋田には届かないことが確定し、優勝の夢は消えてしまった。そして長野が勝ち点を49として2位に再浮上し、岐阜との勝ち点差は6と開いた。状況はさらに苦しいものになってしまっているが、まだJ2昇格を諦める段階ではない。11/6(金)には、札幌などで活躍したDF #5パウロン選手の加入が発表されたFC岐阜。残り1ヶ月間、目の前の1試合を最後まで集中して戦い抜いて勝利を積み重ねることで、このJ2昇格争いサバイバルレースを最後まで必死に走り抜き、そして最後にはJ2復帰を掴み取る。

さて、今節の対戦相手はセレッソ大阪U-23。G大阪U-23と同様、J1のC大阪が東京五輪での活躍を期待して若手選手を育成するために結成しているチームだ。トップチームで出場機会の乏しい若手選手とユース選手主体のチームで、G大阪よりもさらに選手育成を主眼に置いてオーバーエイジ枠をほとんど使っていない。そのため選手のフィジカルや経験が不足していることもあって、現在は最下位の18位。しかし、個々の選手の技術は優れており、決して油断してはいけない。富山・鳥取を破り、直近の試合でも相模原に引き分けている。そしてまた、我々FC岐阜も、7/15(水)第4節のアウェイ戦で、0-2と痛恨の敗戦を喫していることを忘れてはならない。今回の対戦では、J2昇格争いに望みをつなぐため、二度と油断して勝ち点を失うことの無いよう、気を引き締めて戦い、そして勝利しなくてはならない。

C大阪U23の要注意選手には、#42 藤尾翔太を挙げる。昨年までは2種登録でJ3を戦い、今季からトップ昇格したルーキーの長身FWは、現在8ゴール。直近5試合でも2ゴールを挙げており、チームの得点源だ。また、京都からレンタル移籍の#29 島村拓弥は、2018年には岐阜にレンタル移籍していた選手だ。岐阜の#28 永島悠史の3年後輩にあたり、両選手のマッチアップにも期待したい。また、C大阪U23は選手育成の観点や対戦相手に応じて選手を入れ替えてくる傾向があり、事前のスカウティングや試合中の戦術変更も重要になってくるだろう。仲田監督の采配にも注目したい。

全国的に新型コロナ第3波の危険が広がり、11/8(日)の富山戦の来場者に新型コロナ陽性反応が確認されたとの発表もあった。幸いなことにクラスター化は避けられたが、十分に感染防止対策・観戦ルールを遵守しつつ、勝利を目指して最後まで戦い、走り続ける選手たちの背中を後押しする熱い応援を最後まで続けよう。タオマフやゲーフラの掲出でスタジアムを緑に染め、(声は出さずに)拍手や鳴り物の音をスタジアムに響かせよう。そして、試合終了後には観戦ルールと社会的距離を守りながら、勝利の喜びを選手たちと分かち合おう。(ささたく)

投稿募集!! [gidaidohri@gmail.com](mailto:gidaidohri@gmail.com)

## 【第26節】岐阜 0-0 富山

●中3日とはいえ、もう下位チーム相手にこれ以上勝ち点を落とせない。そして、前半20分ぐらいまでは良い雰囲気です。岐阜が試合をリードしていたと思う。しかし、得点を奪えずにいると徐々に攻守のバランスが悪くなってしまふ。以前から感じているんだけど、攻撃パターン練習が不足しているから、どうしても攻撃にチグハグさが出てしまふ。ロングボールも繋がらないし、ショートパスも強さが足りなくて相手に奪われる場面が目立つ。サイド攻撃も、時折成功して敵陣深く切り込めるんだけど、単騎突入でフォローがないから相手のCBを釣り出すことができない。中央を固められたまま人数不足のところに精度の悪いクロスが入っても…と、ほとんど得点の匂いがしない。数少ないシュートも枠に飛ばず…枠に入ったのは2本ぐらい？そしてこの試合でも、クリアボールやセカンドボールは相手に渡すのがルールであるかのような…いやまあ、変に後ろで繋いでボールを奪われるよりはマシなんですけどね（苦笑）。試合終盤に#33北谷史孝を入れたから#4甲斐健太郎を前線に上げて、縦ポン“大作戦”かなと思いたけれど、なんと3バック！？サイド攻撃に拘りすぎじゃないのかなあ…。そして自らバランスを崩してしまい、試合終盤は富山の猛攻を浴びることに。いやもう、#29パク・ソンス様々でしたよね、何度もビッグセーブでゴールを守ってくれました。結局、スコアレスドロー。シュート本数は岐阜の6に対して、富山はなんと15。富山のフィニッシュの精度にも助けられた結果かなと思う。よく守れてはいるけれど、攻撃に連動性が無い。勝たなくてはならない試合、それもホーム戦で勝つことができない。岐阜サポとしては（攻撃での）盛り上がり方に欠け、不安ばかりが残る試合内容だった。

（ささたく）

●昔懐かし、○リアンナのよかった探し。前後半の10番のシュート。前半の王子のクロスから富樫のシュート。この時間帯までの流れ。あとは、後半の前田さんのシュート。以上。他に何かありましたっけ？とにかく、締まりが無さすぎてね。

それでも、勝ち点がついた上に昇格圏内とは勝ち点3差。アノ内容だからコノ結果なのに、昇格争いのこの状況はラッキーとしか。ただ、今後もコレでは……。それとも、まだ3差。焦る必要はない、のか？これ以上開くと焦ったところでどうにもならなくなるような気がするんだけど。

とりあえず、これからは相手がどこだろうと勝つしかない！だよな。だって、もう、他に言える言葉がないからね。頼むよ！

（ぐん）

●要するに「深く深く、がっかりした」とでも言いましょか。岐阜と富山で揃って演じてくれた『史上空前の大凡戦（当社比）』。何か愉しいことが起きるんじゃないか？というトキメキはニュートリノ1個分も見当たらなかった。

DFからのフィードにしろ、サイドからのクロスにしろ、とにかく『雑』で『テキトー』で『いい加減』。もしこれが「消化試合」だったとしても、もう少し観客に何かを訴えるプレーは生まれるでしょう。で、これが岐阜だけじゃなくて（礼を欠きますが）富山もそうだったから、合わせ技で大凡戦の出来上がり。

こんなサッカーやってこんな結果で、それで最終的にJ2復帰が出来るのなら、サッカーの神様はよほど岐阜にJ3にいてほしくない理由があるのだろう。言い過ぎたかな。でも、そんな試合にしか感じなかった。

（吉田铸造）

## 【第27節】秋田 1-0 岐阜

●無敗の首位・秋田とのアウェイゲーム。秋田に土をつけるべく敵地に乗り込んだ岐阜だったけれど、やはり秋田の素早い寄せとフィジカルに手を焼く。画面で見てたからか、ホーム戦ほどの迫力は感じなかったし、岐阜の選手たちも一度対戦しているから分かっていて走りでも対抗するんだけど、それでも…。そして、秋田の選手たちが走りながらプレーするのに対し、どうしても足を止めて（あるいは緩めて）プレーしてしまう岐阜の選手たちとの差。秋田の選手たちは、それほど上手くはないのだけれど、それをチーム全員の走力とフォローでカバーしていることを、改めて痛感させられた。考えてみたら、J2昇格後のFC岐阜も、今西さん（今西和男GM。後に社長）の提唱する『下手でも最後までひたむきに走り続けるサッカー』を目指していたはずだ。それが『長良川劇場』と呼ばれる状態をも作り出していたと思うのだけれど、いつからウチは走らない・走れないサッカーになってしまったんだろう？そして、以前よりは上手い選手が揃ってきたかもしれないけれど、その選手たち個人の才能やひらめきに任せて、チームとしての戦術・攻撃を徹底しないようになってしまったんだろう？そしてまた、どうしてセットプレーを重要視していない（ように見える）んだろう？この試合の秋田は、それほど調子が良くは見えなかったけれど、セットプレーで1点をもぎ取った。強いチームというのは、調子が悪くても勝つ術を、その多くはセットプレーでの得点源を持っているものだ。そして、練習に裏付けられた走力と守備力。1-0、つまり“ウノゼロ”での敗戦。今回は最少失点で終えることができたけど（苦笑）、ホーム戦と同様、チームの完成度に大きな差を感じる試合内容だった。

だけど、大事なのは秋田戦の後遺症を引きずらないことだ。前回も、中3日での福島戦を落としてしまった。今回は、同じ轍を踏んではならない。

（ささたく）

●感動も興奮もなかった。身も蓋もない言い方をすれば、ソコにあったのは『自分らより弱いチームには勝ち、強いチームには勝てないサッカー』。あ、最近では、弱いチームには苦戦し……か。長良川より接戦、というか、点差は縮まった。だが、秋田の出来も大概だったし、そんな出来の相手に勝てなかった。相手GKを脅かすような決定機も作れなかった（枠内シュートは2本あるけど、向こうには余裕あったよね）。シュート数は増えたけど、長良川の前半に王子が放ったパー直以上のシュートがなかったんで、感想はH&Aでほぼいっしょ。つまり、ボクが興奮する場面は皆無だった。

終了と同時にDAZNを切ったんだけど、ふと気になって終了してからを見直し。見たかったのは試合後の挨拶。現地組は、何か檄を飛ばしたのかな？って。あ、このご時世、声を出しちゃいけないんだね。拍手はしたのかな？と。DAZNを見た限りではわからなかった。どのみち、ボクがアノ場にいたとしてもやることは決まってる。ただ、立ち尽くす。それだけ。かつては、無言で、しかし、タオマフだけを高く掲げて意志を示したことは多々あった。だけど、この試合を見て何かあるかな？たぶん、掛ける言葉はなかったと思う。

第27節の結果、長野とは6ポイント差がついた。直接対決がある分、幾ばくかの可能性はある、か。形ばかりではあるけれども、いつまでも未練タラタラな状況だが、なりふりを構ってられないのは間違いのない。

案外、前節終了後に「まだ、3ポイント差なんで焦る必要はない。」と言い放った10番の太々しさが見てる者には必要なのかもしれない。

（ぐん）